

別紙1

根室市产学官連携研究開発事業報告書（中間報告）

①研究課題	エコツーリズムの研究開発		
②施策期間	始期：平成22年10月 終期：平成25年3月		
③研究者・連携先 の担当者等	民間	落石漁業協同組合 総務部部長代理 盛本辰一 根室湾中部漁業協同組合 参事 斎藤史彦	
④研究概要	大学	東海大学海洋学部海洋文明学科教授 山田吉彦	
	行政	根室市水産経済部商工観光課	
	根室地域の恵まれた海洋資源、貴重な自然を生かした観光振興の可能性を探るため、各種体験およびモニタリングを実施することにより、外部からの視点と市民の視点の違いや課題を把握し、将来に向けたエコツアープログラムづくりに活かす。		
⑤研究成果（中間報告）			
[要旨]			
① 氷下待ち網漁プログラム	東海大学海洋学部の学生9名により「氷下待ち網漁の見学・体験」のモニタリングを行い、ツアープログラムの1つとして確立するための仕組みづくりや、「見学のみ」「体験付き」などのお客様のニーズに応じたオプションの付け方、料金設定などについて共同研究し、プログラムの確立を図った。		
② 望星丸入港プログラム	東海大学の海洋調査研修船「望星丸」の花咲港入港を機に、学生に各種体験及びモニタリングを実施してもらい、外部からの視点と市民の視点の違いや課題を把握し、将来に向けたエコツアープログラムづくりに活かすことを目的として取り組んだ。		
[取組状況（時系列）]			
(1)平成23年2月実施のモニタリング調査			
○実施期間	2月6日～9日、3泊4日		
○体験内容	氷下待ち網漁体験、漁業者宅へ民泊		
○参加者	山田教授、川崎教授、学生3名		
(2)平成23年6月実施のモニタリング調査			
○実施期間	6月14日～16日、2泊3日		
○体験内容			
① フィールド体験	：根室史跡めぐり、フットパス春国岱・野付半島での自然散策やバードウォッチング		
② 水産加工体験	：秋鮭・サンマなど根室で水揚げされる代表的な魚種を使った水産加工品の製造実習		
③ クルーズ体験	：落石ネイチャークルーズ		

④ 根室市民との交流：地元小学生との給食交流、体験事業者等との意見交換など

○参 加 者 加藤学部長、山田教授、川崎教授 他 4 名

学生：3 年生 52 名、4 年生 11 名 計 70 名

※東海大学海洋学部海洋実習船「望星丸」が花咲港へ入港

(3) 平成 24 年 2 月実施のモニタリング調査

○実施期間 2 月 19 日～22 日、3 泊 4 日

○体験内容 氷下待ち網漁体験、民宿たかのとフィールドイン風露荘に分宿

○参 加 者 山田教授、川崎教授、大久保講師、学生 9 名

[成果（中間）]

① 氷下待ち網漁プログラム

「学生アンケート」「意見交換会」の概要

○氷下待ち網漁と野鳥観察を組み合わせたプログラムの満足度が高くおおむね好評であり、また、氷結した湖上をスノーモービルで移動するだけでも、十分魅力ある素材であることがわかった。

○「体験」の場合、漁場の徒歩移動や網揚げがかなり体力を消耗するため、漁場も 3ヶ所程度で十分であり、「見学のみで良い。」という意見が大半であった。

○氷下待ち網漁を商品化して成り立つかどうかの意見が約半数に分かれた。
(学生によって、氷下待ち網漁のみの商品と認識し、成り立たないと判断でしたが、実際は様々なメニューを組み合わせる中の一つとして成り立つかを聞いたかったので、認識の違いがあった。)

○料金設定については、3 泊 4 日で漁の見学・体験、宿泊・食事込みの場合、1 万 5 千円～2 万 5 千円が妥当との回答が 70%。漁の見学・体験のみの場合、見学で 3,500 円～、3 名程度で 5,000 円～などの様々な回答があった。

○事前のバス移動の中で「自然と人との共存」を手短にガイダンスできる環境づくりや、漁も説明できて野鳥もわかるガイドの必要性。

② 望星丸入港プログラム

●アンケート調査結果について

根室における体験プログラムに参加した学生 62 名より回答を得た。

①スケジュールが過密でもう少し余裕がほしい。

②「貴重な自然」と「味覚」をさらにアピールすべき。などの意見が多かった。
今回の体験メニューの中では、「明治公園バーベキュー（根室市民との交流）」「花咲港小学校での給食交流」「落石ネイチャークルーズ」「新谷耕司さんによる野鳥観察と観光についての講話」「厚床フットパス」などの評価が高かった。

【感想・改善点（抜粋）】

- ・観光地を選ぶ際にイメージしうる観光内容に魅力が少ないと思う。
- ・霧や寒さなどのこれまでマイナスとされてきた点をどうするかが大きなポイントになる。

- ・市内の祭事に合わせての寄港や「ミニ・オープンキャンパス」的なイベントを提案したい。
- ・課題と向き合いながらも楽しみながら取り組む姿はとてもかっこいいと思った。
- ・根室の人々の温かさを実感することができた。
- ・遠方から来たお客様が、悪天候のシーズンにあたった場合（霧やうねり、雨）、その対処や対策をどうするのかという課題が難しいのではと感じた。
- ・何かしら空から鳥を見る方法があるのではないかと思った。例えば気球とか・・・。
- ・根室特有の鳥や花を観光としてアピールするならば、私の様な知識のない人でも楽しめるように、無料でガイドさんをつけたり説明用紙を貸し出したりしても良いのではないかと思った。

⑥研究成果の公表、又はその準備状況

[市民への成果公表の方法]

随時、新聞報道で公表した。

⑦平成24年度事業の展開と展望

[展開・展望]

- | | |
|---------------|--------------------|
| ① 氷下待ち網漁プログラム | 商品化へ向けた取り組み |
| ② 望星丸入港プログラム | 学生によるモニタリングを実施（継続） |

[課題]

- ① 氷下待ち網漁プログラム
 - アピール内容やターゲットの明確化
 - プログラムのシナリオ、ガイダンス内容の作成
 - 見学・体験終了後のおもてなし
(獲った魚を食べる、ホットコーヒー、写真ポストカード配付等)
 - 商品化へ向けた取り組み
 - ・根室湾中部漁業協同組合や漁業者との調整
(受付事務、受入漁業者やスノーモービル送迎の連絡調整)
 - ・防寒具、ソリ等の環境整備
 - ・「漁の仕組み」「野鳥」各々が結びついて共存していることを説明できる人材育成（スノーモービル運転者に担ってもらうのが望ましい。）
 - ・宿泊先と川口漁港間の送迎対応
 - ・所要経費を踏まえた料金の算定

⑧その他、特記事項

特になし。

以上